

開校記念行事 校長講話

令和2年 5月1日

校長 井上 健史

- 生徒の皆さん。学校の臨時休業も長期になっていますが、体調管理に努め規則正しい生活を送っていますか。
本来であれば、5月1日は開校記念行事を行う予定でした。今日は学校創立を祝う特別な日なので、本校の歴史を振り返り、新たな歴史を創るという気概を持って、今後の学校生活を送ってもらいたいと思います。入学式や始業式で話したキーワードの一つである「ターニングポイント」としてください。
- 本校は、昭和46年4月、鳥栖高等学校商業科が分離独立し、鳥栖商業高等学校として各学年5学級で開校しました。今年で開校50年目を迎える、伝統と歴史のある学校です。これまで数多くの先輩方が、この学舎を築立ち、県内外のいろいろな分野で活躍をされています。
- 開校当時、学校の周りには何もなく、建物も校舎のみで施設・設備も整っていない状況で、職員と生徒が力を合わせ鳥栖高校から机や木を運び、木を植えて学校の基礎づくりに苦勞されています。校地内の通路等は未舗装で、ひとたび雨が降れば外庭は泥沼でなり、校内の廊下も結露等で水浸しになるような始末でした。
- 本校は分離独立で開校したため、新入学の1年生はもちろん、移籍してきた2年生と3年生と全学年がそろって開校しています。第1回の卒業式は、体育館も完成しておらず、商業実践室で挙行されました。体育館が完成したのは昭和48年で、プールは昭和49年に完成したみたいです。
- 本校の校訓「志学」・「友愛」・「創造」は、創立20周年を記念して定めています。急激に変化する社会にあっても、どんな時代になっても変わらない教育理念が込められています。「志学」は学ぶことを尊び、「友愛」は人権を尊重し、「創造」は進んで新しいことに取り組むことだと解釈します。校章のデザインは、「円は人の和、人の心、三角形は全身を表し、全体は大空に羽ばたく鳥を表現しています。そういう願いが込められていることも理解してください。
- 本校の歴史の一端を振り返ってみましたが、開校当時の生徒や教職員は、厳しい環境であっても、前向きに努力を積み重ねられたこと。また、これまでの卒業生や多くの関係者の方々、地域の方々の協力のもと、本校の校風・伝統が築かれたことを忘れてはなりません。これまでの伝統と精神が引き継がれ、輝き続ける鳥栖商業高等学校であって欲しいと思います。
- 最後に、新型コロナウイルス感染予防のために臨時休業としています。生徒の皆さんは、これは感染拡大を防止するための休業であることを認識し、自分の行動には十分注意してください。今年の重点目標として、「心遣い」と「挑戦」というキーワードを伝えています。今の状況で我々ができる心遣いは、外出を控えて家にいることではないでしょうか。また、自宅にいる時間を活用して、資格取得の勉強であったり、料理や部屋の掃除であったり、何でも構いませんので、新たなことに挑戦してみてください。